

製品名: ME2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13763**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	ME2
別名	ME2; NAD-dependent malic enzyme; mitochondrial; NAD-ME; Malic enzyme 2
遺伝子 ID	4200.0
SwissProt ID	P23368
免疫原	抗血清はヒト ME2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

背景

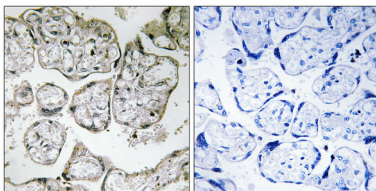
この遺伝子は、ホモ四量体タンパク質であるミトコンドリア NAD 依存性リンゴ酸酵素をコードし、リンゴ酸からピルビン酸への酸化脱炭酸反応を触媒します。この酵素は、以前はフリードライヒ運動失調症として知られる症候群と弱く関連付けられていました

が、その後、全く異なる遺伝子の変異の結果であることが明らかになりました。この遺伝子の特定の一塩基多型ハプロタイプは、特発性全般てんかんのリスクを増大させることが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年12月]、触媒活性: (S)-リンゴ酸 + NAD(+) = ピルビン酸 + CO(2) + NADH、補因子: 二価金属陽イオン。マグネシウムまたはマンガンを好む。、酵素調節: フマル酸によるアロステリック活性化を受ける。、その他: このアイソザイムは NADP(+) も利用できるが、NAD(+) を使用するとより効果的である。、類似性: リンゴ酸酵素ファミリーに属する。、サブユニット: ホモテトラマー。、

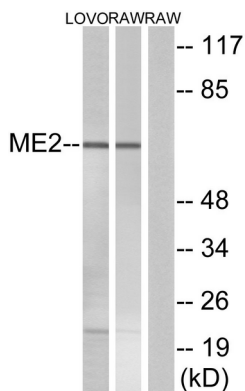
研究分野

ピルビン酸代謝;

画像データ



ME2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ME2 抗体を用いた RAW264.7 細胞および LOVO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。